

外国にルーツのある中学生の 生活・課題・将来

神戸大学 佐々木祐

本報告の構成

1. 学校生活について
2. 家庭生活について
3. その他の課題
4. まとめ

★2020年度に実施した各中学校聴き取り（教頭、学年主任、担任）に基づく

★**小学校調査から見えてきた課題と共通する部分が多い**

→相違点や中学生特有の問題（思春期・進学など）を中心に報告する。

1. 学校生活について

学習面における問題がより顕在化

→そもそも学力差・得意不得意がはっきりする時期

勉強はよくできる。どの科目でもよくできている。国語もよくできている。高校は公立高校（地元進学校）を希望しており、大学進学も目指している。
学力は学年でもトップクラス。

（両親とも中国人）

学力的に問題はなく、レベルの高い高校を志望している。また中国語検定も受けており、母親とは中国語で会話している。

（中国人母）

一方で…

近所で、数学と英語を習っている。数学はけっこう点数を取るようになったが、**英語の成績はあまり上がっていない**。一方で、**絵がとてもうまい**。持って生れた才能みたいなものはすごい。

(中国人母)

読んだり、計算したりはできるが、関心のないことはしない。時間のかかる面倒くさいことはしないというところがある。自分の気が向かなかつたら全然しない。**能力的なものよりは、発達の問題で何か持っていると思う**。

(中国人母)

★「外国にルーツをもつ生徒だから学力に問題がある」ということでは全くない。ただ、出自の問題が「発達の問題」と捉えられてしまう可能性も。

不登校などメンタル面での問題

→学習面での問題がその一因となっている場合も

勉強が嫌い。しんどいことが嫌い。苦手なことはあまりしない。すると、母親がたいへん厳しくしつけるため、そのためにかえって**不登校傾向**に。
(中国人母)

言葉の意味や問題文の理解が難しい時がある。また生活習慣などの問題から、支援を要する児童として小学校から申し送りを受けていた。コロナを機に人と関わらないようになり（略）**現在は不登校**で週2回の別室登校を目標にしている。

(フィリピン人母)

学校・教育・生活についての「文化」的差異？

身の回りの整理整頓が難しく、忘れ物が多い。クラスメイトと仲良く過ごしており、楽しく通学しているが、朝起こしてもらえないので遅刻しました、ということか時々ある。
(フィリピン人母)

学力は低め。外国籍だからということではないと思うが、学習規律ができていない。机に向かっているのが難しい。家庭学習の習慣もない。提出物も出していない。
(フィリピン人母)

★ こうした問題が、出身国・地域の文化的差異によるものか、より個人的な要因が原因なのかは明らかではない。ただ、**学校・教育・生活に関するそれぞれの国の基本的な情報**があれば、より適切な対応が可能になるはず。

「目立つ」ことを忌避する傾向がより強まる

→特に文化的背景と名前について

国語の時間に、先生がこの生徒に漢詩を中国語で読ませていた。彼女の中国語の発音を聞いて、クラスメイトたちは「すごい!」といった反応をしていた。

部活動で使用している道具には、中国由来の四字熟語が書かれている。その熟語の意味を 校長先生が尋ねたところ、後日その意味を紙に書いてきて説明してくれた。

(両親ともに中国人)

→生徒が自らのルーツを誇りに思っている事例

一方で…

(母親の出身国由来の) ミドルネームを周りの子から、冷やかされるようになった。人の良い子なのであまり言えないが、けっこういじられる。

(略) 最近、周りの子も成長して来て、言わなくなったが、ふざけたときにちょっとからかうというか、「いじる」対象になる。あまり言うとも本人も気にすると思うので、周りの子への指導の仕方はケースバイケースである。
(外国人母)

最初ミドルネームがあったが、途中で日本風の名前に変更した。それまでは二重国籍だったが、日本国籍を選んだ。本人は、おそらくミドルネームがあるのが嫌だったのではと思う。

(外国人母)

もともとは中国名だったが、**学校では中国名は隠して**、通称を使っていた。いじめられやすいタイプの子だった。

(中国人母)

母親の母語である中国語は習得していないと思われる。**学校では一切中国語を口にする**ことはない。

(中国人母)

教員の前で中国語を話さない。「中国語でしゃべって」と言ってもしゃべらない。母親とは中国語で話していると思うのだが。

(中国人母)

★自らの**文化的バックグラウンド**や**母国の文化・言語**、また**能力を否定的に評価**すること、ひいては**自己肯定感の低下**につながる可能性

「特別扱い」を忌避する心情が、学習に影響を与える可能性も

放課後に 1 時間、あいうえおからボランティア が来てくれて、日本語を学んでいた。中3の現在は、**学校に1人で残ることを本人が好まず、そうしたサポートはついていない。**

(両親フィリピン人)

放課後にあいうえおのボランティアによる学習支援を週二回受けているが（別室で一对一）、本人は「**もう大丈夫だから、サポートはいらない**」と担任にこぼしている。それよりも**早く帰りたい**ようだ。

(両親中国人)

2. 家庭について

親子間コミュニケーションの問題

→日本人父親が年上であるケースも多い（世代間ギャップ）

→外国人親にその母語で十分に意思疎通や心情の吐露ができない
例も

月1回行っている「いじめ調査」では毎回びっしり記入してくる。母親は日本語が不自由であることから意思の疎通をとることが難しく、家庭内で話を聞いてくれる人がなかなかいないかもしれない。父親も仕事が忙しく、話しを聞いてもらうことが難しいのかもしれない。

（フィリピン人母）

(不登校の理由について) 母親の言語の問題や外国ルーツであるということが要因かというそれだけではない。両方だと思いますね。かまってほしい時に母親がいない。勉強を教えてもらいたくても難しい。思春期であること、(略)より一般的な問題などの複合的な要因で、関係があるのかもしれない。

(フィリピン人母)

もともと口数が多いタイプではなく、思春期という事もあり家族とのコミュニケーションはあまりとれていない模様。

(フィリピン人母)

母親の日本語能力はなんとかコミュニケーションはとれるレベルという感じ。通訳は必要としていない。ただ、細かい事柄等はわかってもらえていないのではないかと感じている。(年上の)父親は積極的に学校に関わることはない。ただ、母親と何語でコミュニケーションをとっているのかはわからない。

(フィリピン人母)

(日本人の)父親は高齢と言うこともあり、十分に対応してもらえない面もある。大学進学は、本人も眼中にない。高卒で就職して働ければ良いと考えていると思う。

(フィリピン人母)

進学に関する情報・意識の問題

高校入学のシステムが変わったので、結婚している（年上の）夫が自分のときの知識で考えることができなくなっている。だから、説明が必要。進学する子どもがいる人たちの親（日本人夫）は60歳くらいが多いが、父親の年代が経験してきた頃とは制度が大きく変わってきている。

（にほんご豊岡あいうえお）

外国ルーツの親は進学のシステムについては知識がなく不利な面はあるが、かといって最初から内申点の仕組みを理解してもらって、というのも難しい。あまり最初から内申点をちらつかせるような教育ではなく、発達段階に合わせた教育が目標。

（C中学校教頭）

3. その他の課題

ネット・SNS・ゲームへの依存

以前から時折欠席がある児童であったが、コロナを機に人と関わりた
くなくなり、携帯依存もひどくなった。

(フィリピン人母)

家庭で規則正しい生活ができない。ほっておいたらずっとゲームをし
ている。中3なのに、先日の3連休明けには、「昨日の朝も4時に起き
た」と言っており、朝の4時に起きてゲームをしていた。

(ベトナム人母)

かなりのネット依存。ゲームパット（コントローラー）の扱い方はす
ごくうまい。ほぼSNSをしている。

(中国人母)

★外国にルーツを持つ生徒に限った問題ではないかもしれないが…

「日本人と同じ」対応：肯定的な面と否定的な面

自然な形で例えば調理実習で世界の食などを扱う、その一環として外国ルーツ生徒の出身国の事を取り上げたりなどもありだとは思いますが、あくまでも生徒全体に対しての教育であり、取り上げることが必要なのかどうか、それを当該生徒が望むのかどうか、ということについても配慮が必要。

(C中学校教頭)

★「日本人と同じ」ことをまずは達成すべきという規範

「あえて」生徒のルーツを取り上げることへの躊躇も

↓↑

生徒自身が無意識のうちに自分のルーツを否定してしまう可能性

外国出身の親との今後の永続的な関係性にも影響

4. おわりに

- **「違うこと」**を隠す/恥じる必要のない環境構築の必要性
→「特別扱い」/「平等」という二項対立にとらわれないこと
- **「学校の外」**まで含めて対応する必要性
→「高校に入ったら成功」ではなく
→学校以外の場所でも、多文化アイデンティティを維持・伸長させること
→ソーシャルワーカー的な存在や同国人/多文化コミュニティの必要性
- 各現場に蓄積された**知恵・経験の共有**の必要性
→時間的・人的資源的に実現可能な交流・研修の枠組みづくり

「つながり」の場の必要性

異なる中学校に通う友人とはあいうえおという場所につながっている。
(両親中国人)

A中学校に通っている小学校時代の友達にも会えるから、母親と一緒にあいうえおに通っている
(中国人母)

親の出身国どうしのネットワークがあってもいいかもしれない。外国人コミュニティがあるとすれば、にほんご豊岡あいうえお、国際交流協会。
(A中学校教頭)

フィリピンの母親同士はつながりはないようだ。つながってくれた方が、情報交換もできて(学校にとっても)良いとは感じている。
(D中学校教頭)